

2015年4月15日
「サルパン県タクライ灌漑システム改善計画」
(平成25年度対ブータン無償資金協力) 竣工式

事後発出用プレスリリース

平成27年4月15日

平成27年4月15日、ブータン南部サルパン県において、ブータン農業森林省主催により、「サルパン県タクライ灌漑システム改善計画」(平成25年度対ブータン無償資金協力)の竣工式が開催されました。

本件式典には、イエシェイ・ドルジ農業森林大臣、ブータン政府関係者が出席し、在インド日本大使館から山腰俊博参事官が出席しました。

ブータンにとって農業は従来から基幹産業であり、水力発電、観光、中小企業、鉱業と並んで、ブータンの経済開発にとって重要な5分野(ブータン政府の言う「5つの宝石」)の一つです。また、農業は日本が重点を置いてきた分野でもあり、日本は園芸、灌漑、農業機械化等の分野でブータンの農業開発を支援してきました。

本案件は、総額10億5,100万円のプロジェクトで、ブータン南部サルパン県タクライ地域において、損傷が目立つタクライ灌漑システムを改修するもので、このたび改修が完了しました。

ブータン南部サルパン県タクライ地域は国土の大部分が山岳地のブータンでは貴重な平野を多く持ち、温暖な気候に恵まれ、農業上のポテンシャルが高い地域です。タクライ灌漑システムはブータン国内でも最も古く、重要な灌漑システムの一つですが、近年相次ぐタクライ川の洪水による損傷が目立ち、農業生産が低下していました。今回の改修により、灌漑用水の取水環境が改善し、水の利用も効率的になることから、乾期の米の作付面積は10haから560haに大幅に拡大し、また、全体の灌漑面積は883haから1120haに約25%増加することが見込まれます。

今回の無償資金協力を通じた灌漑施設の改善により、ブータンの食料安全保障が強化され、貧困削減が促進されるとともに、日本とブータンの友好・協力関係が更に発展することが期待されます。



(握手する山腰参事官とドルジ農業森林大臣)



(完成した灌漑施設)